

## 第22回 夏季大学「新しい気象学」開講のお知らせ

—環境としての大気—

**主催** 日本気象学会

**後援** 気象庁, 東京都教育委員会, 日本地学教育学会,  
(助)日本気象協会

毎年開催し好評を得ております「新しい気象学」を本年も開催します。この講座は、新しい気象学の普及をめざし、主として小・中・高校の地学・理科担当教師を対象として行うものですから、特に教職にある方の多数のご参加を希望いたします。

記

**対象** 小・中・高校の理科担当教師および気象愛好者を主体とし、その他学生および一般の希望者。

**受講料** 一般6,000円, 教員5,000円, 気象学会員・日本地学教育学会員・学生4,500円

**日時** 昭和63年7月26日(火)12時(受付開始)  
7月29日(金)14時頃(終了予定)

**場所** 東京都千代田区大手町1の3の4  
気象庁講堂

ただし、台風来襲時には講堂の使用が不能になりますので、会場を他に変更することもあります。

**申込先** (〒100) 東京都千代田区大手町 1-3-4

気象庁内

日本気象学会事務局

Tel. 03-212-8341 (内線 469)

**申込締切** 昭和63年7月15日(金)まで

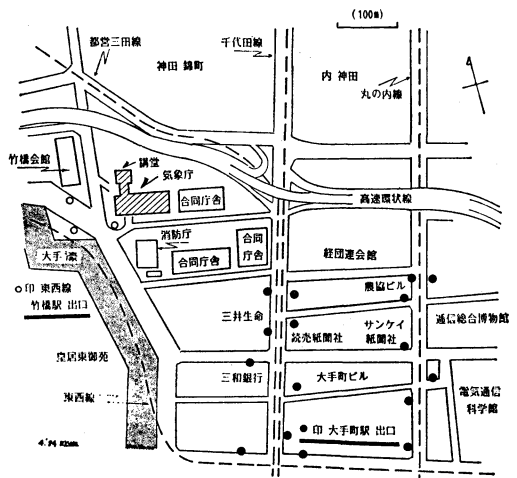
**申込方法** 次頁の様式の申込用紙に記入して申し込んで下さい。参加決定次第受講票をお送りします。

ただし、定員に達し次第締め切ります。

受講料は、1 現金書留、2 郵便替為、3 振替貯金(口座番号 東京3-5958, 加入者名 日本気象学会)のうち適当なものを御利用下さい。

**特典** 受講者には、講義全内容のテキストを無料配布します。全講義出席者には日本気象学会入会の資格および入会金の免除、学会出版物についての便宜をはかります。

**テキスト** テキストのみ希望される方は代金を添えて必要部数を申し込んで下さい。1部1,500円、送金方法は受講料の送金方法に準じて下さい。なお、刊行部数が少ないので希望者はできるだけ早めに申し込んで下さい。



### ●会場への交通

地下鉄 東西線竹橋駅下車

もしくは

地下鉄 千代田線, 丸の内線, 都営三田線

大手町駅下車

## 第22回 夏季大学「新しい気象学」受講申込書

第22回夏季大学の受講を希望いたしますので申し込みます。

受講料は、1. 現金書留、2. 郵便替為、3. 振替貯金で送りました。

(受講料の送金方法1~3のいずれかを○で囲んで下さい)

昭和 63 年 月 日

氏 名	年 齢	歳	職 業
自宅住所 (〒 )	電 ( )		
勤務先等 名 称 連 絡 先 (〒 )	電 ( )		
所属学会			

..... 切 取 線 .....

## 昭和63年第22回夏季大学講義時間表

	午前 (10時~12時)	午後 (13時~15時)
7月26日 (火)		<b>大気の起源と進化</b> 松井孝典 (東京大学) 地球型惑星大気がどのようにしてでき、それが46億年かかって現在の大气になるまで、どのように進化したかを探る。
7月27日 (水)	<b>気候とその変動のシミュレーション</b> 鬼頭昭雄 (気象研究所) 気候のメカニズムを探るための、数値シミュレーションの結果から、CO <sub>2</sub> 増加の影響、エルニーニョ現象の影響実験等について紹介する。	<b>大気中のオゾンの生成と消滅</b> 牧野行雄 (気象研究所) フロン、メタン、一酸化二窒素等の大気中の微量成分の増加が、オゾン層の生成消滅に及ぼす効果やオゾンホール等最近の観測について紹介する。
7月28日 (木)	<b>天気図を読む</b> 永沢義嗣 (気象研究所) 天気図は何を表しているか、天気図から何が読み取れるか、天気図とは何か、天気図から大気の立体的な運動、雲や雨 (雪) の生成・消滅を読む。	<b>天気図実習</b> 永沢義嗣 (気象研究所) 午前の講義をもとに、実際の天気図を通して気象の実態に迫る。
7月29日 (金)	<b>汚染物質の中・長距離輸送</b> 木村富士男 (気象研究所) 都市周辺の広域大気汚染、酸性雨などの国際的な汚染、およびチェルノブイリ事故のときの放射性物質の拡散を題材に、気象と大気汚染の関係を考える。	

\* 水曜日または木曜日15時から気象庁見学の予定。